

言語と社会活動

科目ナンバリング JLE-204
選択 2単位

鎌水 兼貴

1. 授業の概要(ねらい)

社会言語学入門。身の回りに存在する言語(主として日本語について扱う)のさまざまなバリエーションを、社会とのかかわりから解説する。使用者の年齢・性別・職業、使用場面、歴史的変化、地理的変異、言語意識などから、言語のバリエーションのあり方を把握できるようにする。

日常場面においても、使用されている言語にどのような背景があるのかについて、客観的かつ公正な視点で捉えられるようにする。

2. 授業の到達目標

- ①社会言語学の基本的概念を理解すること。
- ②身の回りに存在する特徴的な言語現象を、自ら探し出せるようになること。
- ③具体的な言語現象について、授業で学習した理論や術語を用いて解釈できるようになること。

3. 成績評価の方法および基準

- ①授業内小課題(到達目標②) 40%
- ②試験(到達目標①・③) 60%

4. 教科書・参考文献

参考文献

木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ 『方言学入門』 三省堂

真田信治 『社会言語学の展望』 くろしお出版

真田信治・ダニエルロング・朝日祥之・簡月真

『社会言語学図集(改訂版) 一日本語・中国語・英語解説一』 秋山書店

井上史雄 『社会方言学論考』 明治書院

5. 準備学修の内容

毎回、身の回りに存在する言語現象を探して提出する、という小課題を課す(履修者数によって各人の担当回数は変化する)。

6. その他履修上の注意事項

- ①授業中に学生に発言を求めるため、授業への積極的な参加を望む。
- ②教科書は使用せず、プリントで資料を配布する。過去の授業回のプリントを参照することがあるので、配布資料はすべてまとめておくこと。
- ③上記以外の参考文献については授業内で紹介する。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | <イントロダクション>
社会と言語の関係について |
| 【第2回】 | <文化庁「国語に関する世論調査」>
言語の調査データについて考える |
| 【第3回】 | <ことばの「乱れ」>
言葉の「正しさ」とは |
| 【第4回】 | <共通語化>
現代日本語の成立について |
| 【第5回】 | <言語弱者>
「言語権」とは |
| 【第6回】 | <多言語表示>
在日外国人の言語使用について |
| 【第7回】 | <ポライテネス>
コミュニケーションにおける配慮とは |
| 【第8回】 | <外来語>
世界の中の日本語を考える |
| 【第9回】 | <文字と社会>
音声言語と文字言語について |
| 【第10回】 | <地理的変異①・東西対立>
日本語の方言について |
| 【第11回】 | <地理的変異②・周囲分布>
日本語の歴史について |
| 【第12回】 | <社会的変異①・世代差>
言語変化や新語、流行語を考える |
| 【第13回】 | <社会的変異②・性差・集団差>
男女の言葉の違い、専門用語、若者言葉を考える |
| 【第14回】 | <言語景観>
街中における言語の役割とは |
| 【第15回】 | <まとめ>
社会言語学的研究の意義について考える |